

Arctic Challenge Exercise 2013



Photo : Trond Hoyvik



COMAO (Combined Air Operations) と称される多国籍統合航空作戦は現代の地域安全保障上重要な意味を持つため、昨今とくにNATOを中心に多くの国が協同しての航空演習の頻度を高めている。そうしたなか、北欧の3カ国、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドでもこうしたCOMAOの重要性を認識しており、9月中旬から下旬にかけて、同地域で「アークティックチャレンジ・エクササイズ2013」と銘打った演習を実施した。頭文字をとってACE (エース) 2013と呼ばれるこの演習は、綿密な作戦立案から国連の承認を得て3カ国の国境をまたぐかたちで実施され、ノルウェーのボドとオーランド、スウェーデンのルーレア、フィンランドのロバンニエミの4つの基地に約2,000名の将兵、75機の航空機が集められて実施されている。演習の航空戦訓練にはノルウェー空軍132 LuftvingのF-16A/B、スウェーデン空軍の各部隊からJAS39C/Dグリペン、フィンランド空軍HävLLv 11のF-18C/Dホーネットなどの戦闘機が参加したほか、英空軍からNo.6 SqnのタイフーンFGR.4が、財政削減で多くの演習をキャンセルした米空軍からもUSAFE (在欧米空軍) 48FWのF-15C/D/Eが参加しており、今後隔年開催をめざし、さらに規模の拡充を図りたい考えだ。

Report : Marco Dijkshoorn



↑ ホームベースであるボド基地を離陸する132 LuftvingのF-16A。空対空ミサイルは搭載しているものの増槽なしのクリーン形態で、近隣のレンジでのDACT(異機種空中戦闘訓練)へ向けての離陸と思われる。
 ↓ 給油機に近づくフィンランド空軍HävLLv 11のF-18C。演習では各国戦闘機によるDACTのほか、近接航空支援訓練なども行なわれた。



↑ ↓ スウェーデン空軍からはF21とF17に所属するJAS39C/Dがルーレアのほかノルウェーのボドにも展開した。左は今演習の統合ディレクター、スウェーデン空軍のフレドリック・ベルグマン大佐。「2週間にわたる演習の基本は午前にDACT、午後で大規模なシナリオにもとづくCOMAOといった具合に進められ、非常に大きな成果が得られた」と話す。なお、ACE 2013は同時に行なわれたスウェーデン陸軍の演習ともリンクし、英軍のFAC(前線航空管制)チームも参加してCAS(近接航空支援)を含む対地攻撃訓練も実施された。

【3枚】 イギリスのRAFレイクンヒースから演習に参加した米空軍48FWのF-15C。2013年は米政府の財政削減政策により軍の活動は大幅な規模縮小を余儀なくされたが、今演習には同航空団の492、493、494FSの3個飛行隊からF-15Eを含む30機がボドに展開した(写真は493FSのF-15C)。また、演習中の空中給油支援任務にはやはりイギリスのRAFミルデンホールに駐留する100ARW/351ARSのKC-135Rがフィンランドのロバンニエミに展開した。なお、英空軍No.6 SqnのタイフーンFGR.4は、8機がスウェーデンのルーレアに展開して演習に臨んでいる。



↓ フィンランドのロバンニエミ基地に展開、空域の管制や指揮を行なったNATOのE-3A。スウェーデン空軍からは72 ASC Sqn所属のサーブS100D/ASC890も空域コントロールに参加している。

